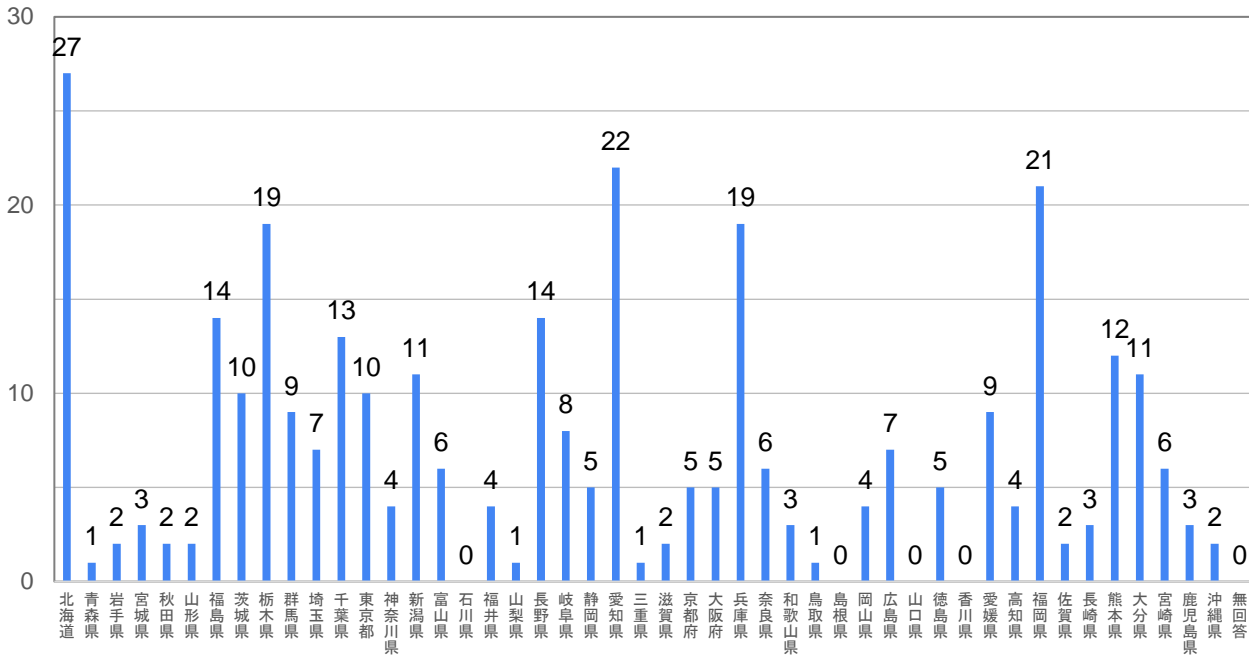


厚生労働省 令和3年度新型コロナウイルス感染症セーフティネット強化交付金
 「新型コロナ影響下での孤立を防ぐつながり人材の育成及び情報提供・アドバイス事業」
 地域づくり人材養成研修【研修Ⅰ】アンケート【申込1283人中 回答325件】

アンケート回収率 25.3% (受講 1283人、回収アンケート 325枚)

【設問1】あなたのことについてお尋ねします。

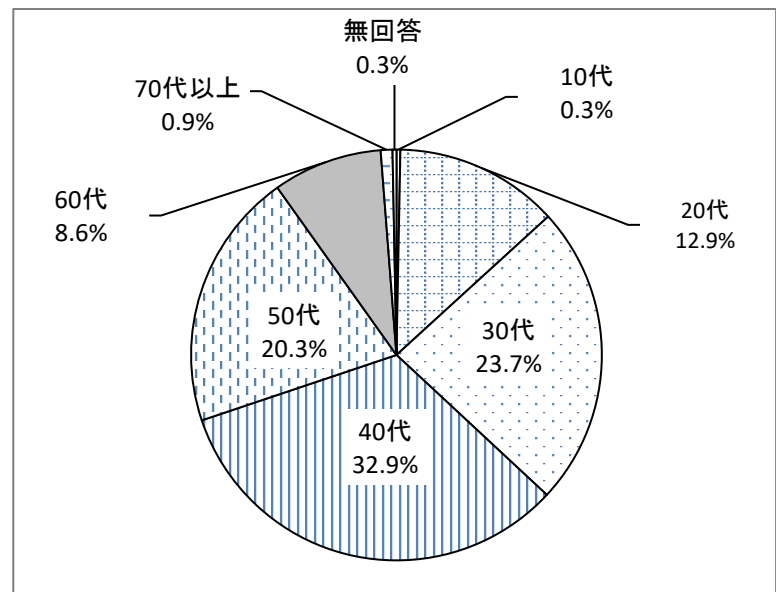
①お住まいの都道府県



北海道	27	東京都	10	滋賀県	2	香川県	0
青森県	1	神奈川県	4	京都府	5	愛媛県	9
岩手県	2	新潟県	11	大阪府	5	高知県	4
宮城県	3	富山県	6	兵庫県	19	福岡県	21
秋田県	2	石川県	0	奈良県	6	佐賀県	2
山形県	2	福井県	4	和歌山県	3	長崎県	3
福島県	14	山梨県	1	鳥取県	1	熊本県	12
茨城県	10	長野県	14	島根県	0	大分県	11
栃木県	19	岐阜県	8	岡山県	4	宮崎県	6
群馬県	9	静岡県	5	広島県	7	鹿児島県	3
埼玉県	7	愛知県	22	山口県	0	沖縄県	2
千葉県	13	三重県	1	徳島県	5	無回答	0

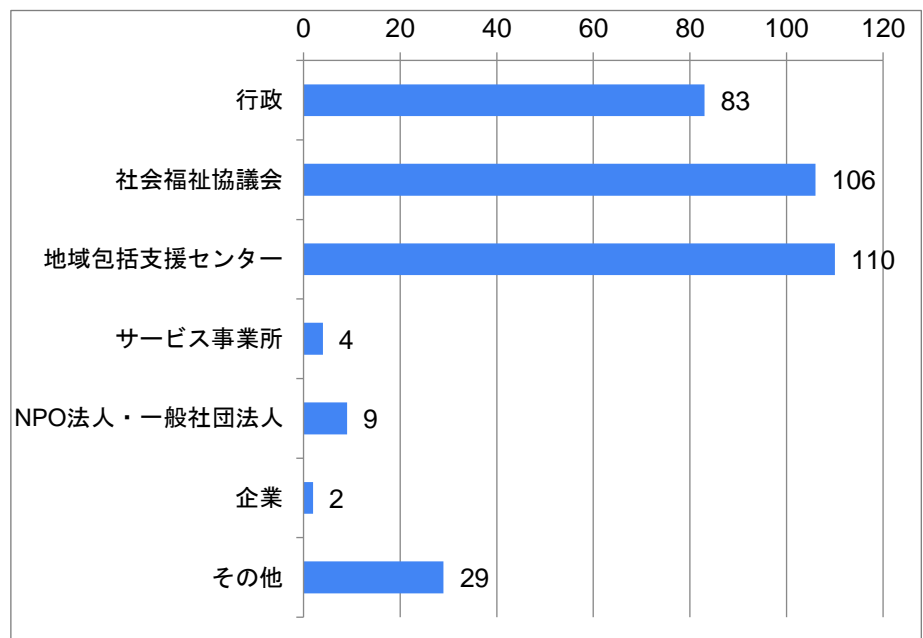
②年代

10代	1	0.3%
20代	42	12.9%
30代	77	23.7%
40代	107	32.9%
50代	66	20.3%
60代	28	8.6%
70代以上	3	0.9%
無回答	1	0.3%
合計	325	100.0%



③所属
(複数回答)

行政	83
社会福祉協議会	106
地域包括支援センター	110
サービス事業所	4
NPO法人・一般社団法人	9
企業	2
その他	29
無回答	0
合計	343

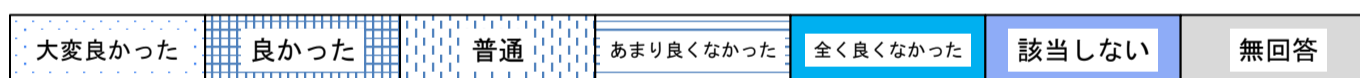
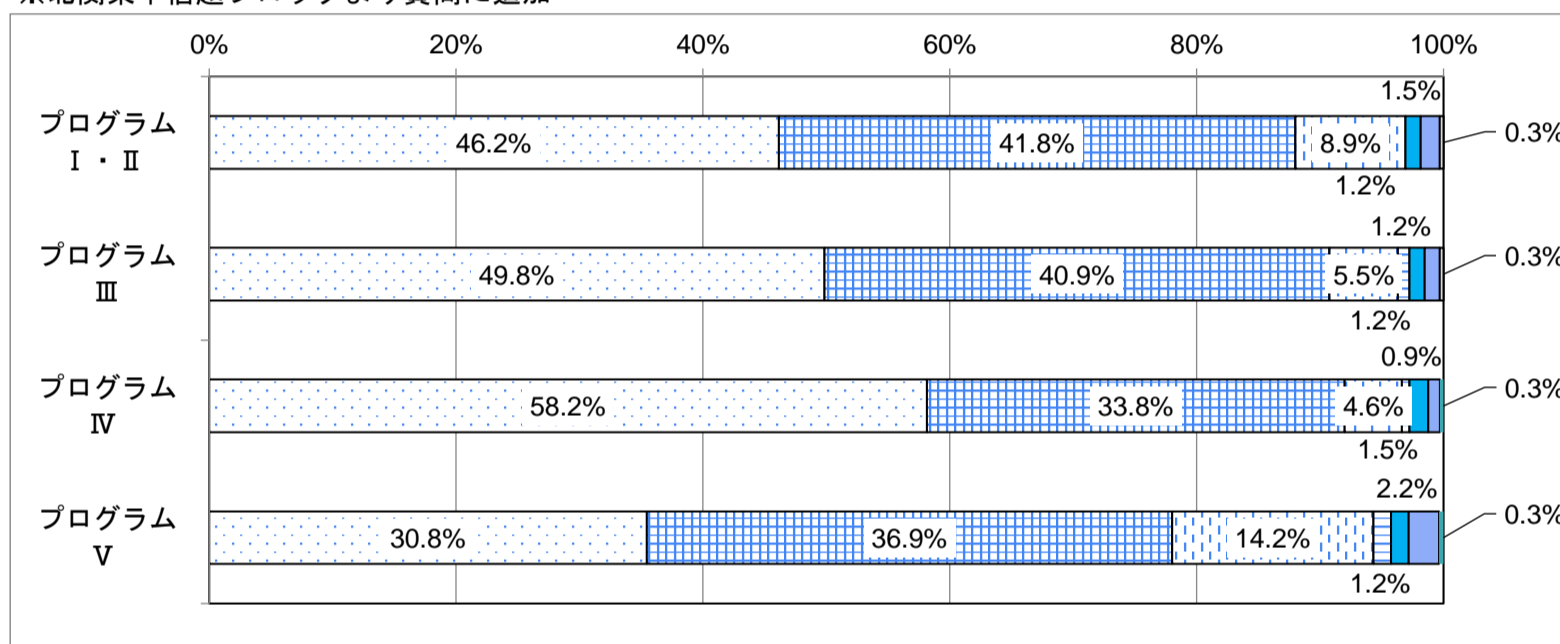


研修の内容についてお聞かせください。（5段階評価）

5 = とても参考になった 4 = 参考になった 3 = ふつう 2 = あまり参考にならなかった 1 = 参考にならなかった
 として5段階評価で平均評点を算出。

評点	5	4	3	2	1	該当しない	無回答	合計	平均評点
プログラムⅠ・Ⅱ	150	136	29	0	4	5	1	325	4.3
	46.2%	41.8%	8.9%	0.0%	1.2%	1.5%	0.3%	100.0%	
プログラムⅢ	162	133	18	3	4	4	1	325	4.3
	49.8%	40.9%	5.5%	0.9%	1.2%	1.2%	0.3%	100.0%	
プログラムⅣ	189	110	15	2	5	3	1	325	4.4
	58.2%	33.8%	4.6%	0.6%	1.5%	0.9%	0.3%	100.0%	
プログラムⅤ	100	120	46	4	4	7	1	282	4.0
	30.8%	36.9%	14.2%	1.2%	1.2%	2.2%	0.3%	86.8%	

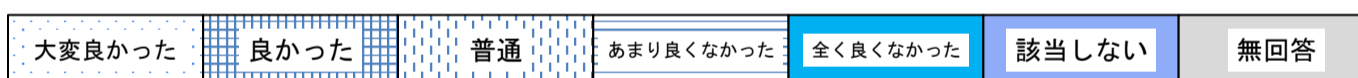
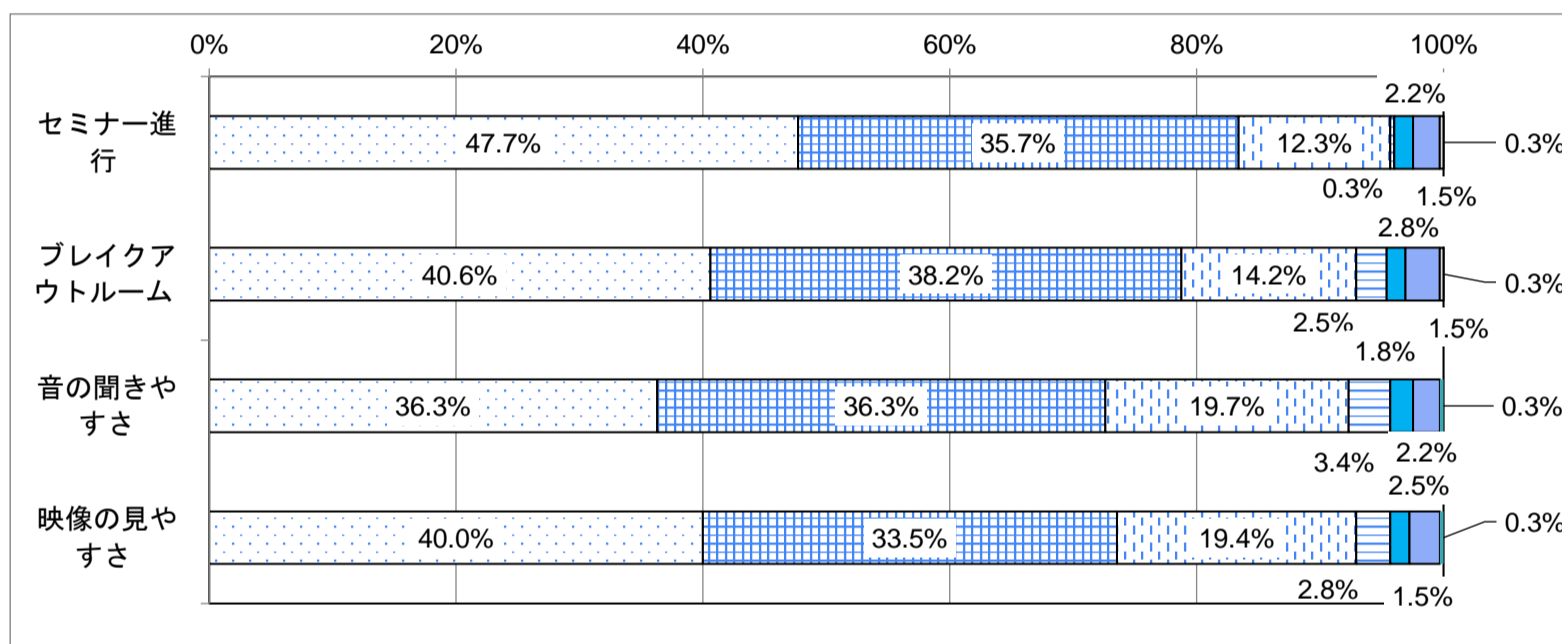
※北関東甲信越ブロックより質問に追加



研修運営についてお聞かせください。（5段階評価）

5 = とてもよかった 4 = よかった 3 = ふつう 2 = あまりよくなかった 1 = よくなかった
 として5段階評価で平均評点を算出。

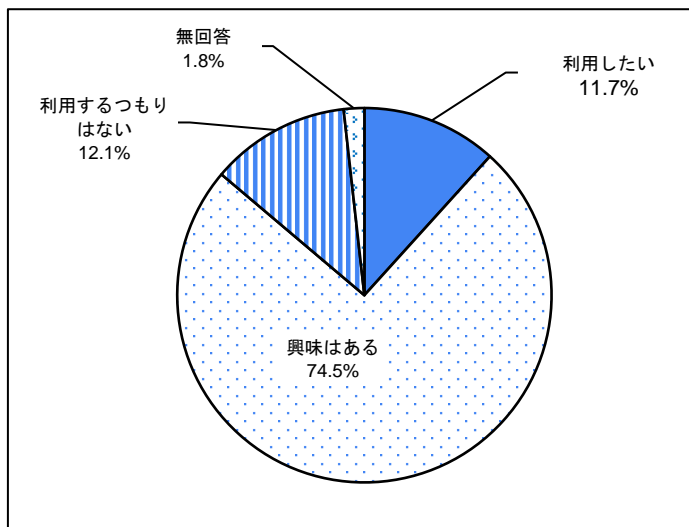
評点	5	4	3	2	1	該当しない	無回答	合計	平均評点
セミナー進行	155	116	40	1	5	7	1	325	4.2
	47.7%	35.7%	12.3%	0.3%	1.5%	2.2%	0.3%	100.0%	
ブレイクアウトルーム	132	124	46	8	5	9	1	325	4.0
	40.6%	38.2%	14.2%	2.5%	1.5%	2.8%	0.3%	100.0%	
音の聞きやすさ	118	118	64	11	6	7	1	325	3.9
	36.3%	36.3%	19.7%	3.4%	1.8%	2.2%	0.3%	100.0%	
映像の見やすさ	130	109	63	9	5	8	1	325	4.0
	40.0%	33.5%	19.4%	2.8%	1.5%	2.5%	0.3%	100.0%	



包括的支援体制構築に取り組む支援団体・自治体向けのオンライン相談事業を10月1日から受付しています。利用したいと思いませんか。

利用したい	33	11.7%
興味はある	210	74.5%
利用するつもりはない	34	12.1%
無回答	5	1.8%
※合計	282	100.0%

※北関東甲信越ブロックより質問に追加



プログラムⅠ・Ⅱ 地域福祉と地域づくり

・地域共生社会をつくるために、縦割りに横ぐしを刺す、分野別福祉から総合的な支援が必要であり、地域福祉である地域生活支援のアプローチと、地域づくりの2つのアプローチが重要なことが分かりました。

・演習により、自分がどのような人や活動とつながっているか再認識でき、有意義でした。
(北関東・甲信越)

・誰もが参加できる地域づくり、多文化共生の社会づくり、多様な主体の協議・協働の場の形成に、自分は第2層生活支援コーディネーターとして活動していく事の意義や関係性について理解しました。
(北関東・甲信越)

・OECDの調査で、日本が高齢者孤立度が世界一高いと知り驚きました。日本人特有の、空気を読む性格などが影響していて、支援者が一歩踏み込み、繋がり直しをする必要があると知り、今後そのような視点も踏まえて、活動していきたいと感じました。
(北関東・甲信越)

・地域共生社会をつくる2つのアプローチでは、グループワークにおいて、自分と同じ職種であっても、まったく答えは異なり、自身の立ち位置が視点を変えることで違う立場になるということを実感することができ、住民向けの勉強会をした際にはぜひ自己知覚のために取り入れたい。
(北関東・甲信越)

・地域福祉と地域づくりにおいて、自分自身がどこに位置づいているのかを考える事が出来た。仕事では地域の相談機関の中に位置づけられたが、一住民として考えたとき、4月に引っ越してきてアパート暮らしなこともあり、近所付き合いもなくごみ捨て等で人に会うこともほとんどないため、どこにもまだ自分はいないのではないかと思った。他の方の発表で「無意識にしていることが地域づくりになっている」という意見が多くあったが、私は意識的に何か行動を起こしていかないといけないと感じた。
(北関東・甲信越)

・現在の社会的孤立の背景になる社会情勢の確認が出来ました。時間が短かったです。もっと藤井先生の話が聞きたかったです。
(首都圏)

・お話は大きな視点を持つことができとても参考になりましたが、ワークショップは時間的に無理があったかと思い、とても残念です。
(首都圏)

・高齢・障害・児童・低所得の縦割り行政をなくし、本人がSOSを出せる社会が必要という話がありましたが、現在ヤングケアラーで児童相談所と関わっている案件で、縦割りのために対応が困難になっているケースがあり、早い段階で縦割りがなくなることを願っています。
(首都圏)

・地域活動に関わる視点や言葉の認識の違い、SOSが言える社会を作っていくという意識を一緒に参加している地域ボランティアの方々とは共有できました。今後、この研修に参加した地域の方々には活動の基盤になるビジョンや共通認識を持つことをベースに話し合いを行うことができそうです。
(首都圏)

・ここ数十年の地域福祉の動向から、地域共生社会の実現、相談支援と参加支援についてまで、改めて学ぶことができました。私は専門職（生活困窮→生活支援Co）なのですが、改めてじっくり感じる事ができました。地域住民も、この研修に参加する人なら、興味深くお聞きになるでしょうか。けっこう聞きごたえがありました。
(首都圏)

・地域共生における自分の立ち位置を見つめ直し、これから必要な活動や視点を学ぶことができました。また、ワークでは、参加者それぞれの視点を共有することができ、有意義でありました。
(東海・北陸)

プログラムⅠ・Ⅱ 地域福祉と地域づくり

・地域の方との一緒にグループだったため、「担い手」の言葉の認識や捉え方は、その人のおかれている立場で違うことを痛感した。言葉の整理・共通認識をしたワークの必要性を学んだ。
(東海・北陸)

・二重円に自分をあてはめてみたときに、本当はこの場所が望ましいけれど、その役割を十分に果たすことができているかを確認するきっかけになりました。また、グループ内でも位置が大きく異なり、グループ内で役割を再確認するきっかけになりました。
(東海・北陸)

・今回の研修の元となる話で理解しやすかったですが、一緒に受講したメンバー間で元の理解度が異なるため、共通認識を持つためにも、もう少し長い時間をかけて詳しい説明があっても良かったように思います。
(東海・北陸)

・地域共生社会をつくる2つのアプローチの図がとても分かりやすく、いろんな立場の人が、自分のいる位置から何ができるか考えるための指標になると思いました。
また、オリエンテーション時に、「仕事としての私」と「住民としての私」を往復しながら研修に参加してくださいという先生の言葉で、自分は、社協職員としての経験が少ないため、今は、自然と住民としての考え方を意識しながら行動しているが、今後も、その視点を忘れないようにしようと、改めて考えました。
(東海・北陸)

・分野別福祉で縦割りになっていたものを、多面的に捉え、横ぐしをさしていく。専門職目線ではなく、生活者目線での関りが必要と感じた
(近畿)

・今まで地域とかかわっていく中で、通いの場や支えあい活動に協力的な方は70代以上の人がばかりだと漠然と感じていましたが、各年代の方々が歩まれてきた時代背景から、なぜそうなったのかがわかり、とても興味深く聞かせていただきました。また、それを踏まえると、今後の予測ができ、これから何を考え、どう動いていかなければいけないのか、というところを考えることができました。地域を考えるために非常に重要な基盤の知識になったと思います。
(近畿)

・村型コミュニティ体験のない世代が社会の中心となり、個人の時代となっている現在に必要なのは、多世代共生、多文化共生であること、そして多様な視点を持つ人たちと協働するためにはお互いの視点を合わせる必要があることなどを学ばせていただいた。また、地域の問題を地域住民が中心になって解決していくためには問題を専門機関に投げて終わりではなく、起きている問題を住民と一緒に解決する姿勢で臨むことが大切だと改めて知った。
(近畿)

・とても興味深く聞かせていただきました。今年から中途採用で社協職員（ソーシャルワーカー）として働いているので、新任研修としてこういう話を聞きたかったと思いました。
(近畿)

・当事者側の立場に立って物事を考える「仕事としての私」と地区の付き合いへの参加に消極的な「住民としての私」がいます。他グループメンバーの意見を聞き、地域への関わりが自然と持てる環境にいる自分やIターンしてきて地域へ入っていきたいのだが、どう入っていったら良いのだろうか考えている、との真逆の意見を聞くことが出来ました。同じものを見ても考えることは、個々で違うこと、それを認め合うことが大切だと感じた。
(近畿)

プログラムⅠ・Ⅱ 地域福祉と地域づくり

・時代背景や社会背景を学び、今後地域で起こるであろう社会的孤立は避けられないことであると知り他人ごとではない、自分ごとだと思った。「住民の私」目線を忘れず地域と関わっていきます。とても、勉強になりました。

(中国・四国)

・専門職といち住民と両方の立場、意識を持っていくことの大切さを改めて感じました。地域資源を聞くときに「あなたは自分の地区の資源をじゃあ知ってますか」と住民に聞かれたことがありました。

(中国・四国)

・行政の方が仕事を離れたときに地元で地域づくりに参加していますか？の問いが的を射ていました。仕事となると頑張っている方が多い中、休日は自分の時間と割り切る方が多い気がしていました。地域づくりに若い方の参加が少ないのが現実です。

(中国・四国)

・地域住民への呼びかけ方、参考にさせていただきます。

参加を呼び掛けても、どうしても「してあげる」感を拭えず、近い将来の地域をイメージさせることが少なかったと思います。

世帯構造の変化に伴う問題点の整理を改めてやってみます。

孤独と孤立の違いについては、改めて考えさせられるものがありました。

(中国・四国)

・1995年以降の社会動向から社会問題をわかりやすくご説明いただき、社会的孤立を含む沢山の問題を再認識する機会となりました。また、地域共生社会に向け、多文化・多世代共生のだれもが役割の持てる地域社会の必要性を痛感すると共に、沢山の宿題をもらいました。

(中国・四国)

・政策動向とともに地域共生社会に向けた地域づくりの重要な視点、大事となる開発的福祉等についてわかりやすく講義いただきました。「地域のなかでの私」も再確認できました。ありがとうございます。

(九州・沖縄)

・地域福祉と地域共生社会について、各課で共通認識を持つことができた。また、グループワークでは普段聞けない他の課の思いや役割を確認することができた。

(九州・沖縄)

・最初の政策の動向の話聞いて、中年層の住民とのかかわり方の悩みの要因がわかってとても自分の中でストーンと落ちた気がしてスッキリしたのと、こういった年代ごとの生活背景などを考えながらアプローチ、地域づくりの方向を考えて行かないといけないと考えることができ、少し前が見えてきた気がしました。

(九州・沖縄)

・面白い内容であったが、地域の方向けには難しい内容でもあったと思う。内容をかみ砕いて、地域の方に伝達できるようにしたい。

(九州・沖縄)

・地域づくりの背景に、社会情勢や歴史と関係があることが新しい発見でした。「住民としての私」を考えると仕事にもつながることを知り、いろんな視点から考える重要性を確認できました。

(九州・沖縄)

・社会的排除と社会的孤立というワードの意味から振り返ることができ、目の前で起こっている地域を考えることができました。家族、コミュニティの基盤が薄らいでいるために、総合的な支援。地域共生社会の目標が必要とされていると考えました。これまでの地域包括支援センター圏域単位で支援を考えることが難しくなり、センター内でも町内会単位で考えていけなくてはと考えていたところで、この講義の内容が明確にして下さったように思いました。ありがとうございます。

(全国)

プログラムⅠ・Ⅱ 地域福祉と地域づくり

・「私も住民」として、こうして改めて立ち返ることを、時間をとってできたことがとても良かったです。また、図を使っての自分の立ち位置の確認と、各々の意見を聞くことができました。その中から、共通認識として行政などと、一つの事に対して話せたことはとても大きなことであると思いました。
(全国)

・地域福祉とそれに伴う政策動向の変遷を改めて確認できてよかった。講話の中で専門職が地域を巻き込む視点だけでなく、住民が地域に専門職等を巻き込んでいく働きかけの話があり、社協に所属している身として、住民の働きかけに巻き込まれているのか考えさせられた。巻き込まれていきたい。
(全国)

・日本の取り組み方が社会の変化により孤立を生みやすい環境になっていると感じ、今までと同じことをやっても孤立問題は変わらないと感じました。また、孤立を変えるうえで多世代との共生が大事であると言われ、子供から高齢者まで様々な人たちが協力して助け合う社会に取り組めるように地域住民で作り上げていかないといけないのだと感じました。
(全国)

・自分の立場や業務内容、これから新しくつながりたい団体が明確になった。色々な立場からの意見も面白くてとても勉強になった。普段から交流の多い、同じ地域の方との会話なのでグループワークも盛り上がった。
(全国)

プログラムⅢ 地域の気につけ合う関係の発見の方法

・グループワークを行う中で、自分はあまり地域と関わっていないような気がしていたが、子供会や町内会など生活の中で以外に関わっている場面があることに気づいた。専門職という視点から離れてみることで気づいたことだが、地域の方も同じように生活している視点で考えれば自然と関わっていることが多く、意識していなくても助け合っている場面は多くあるのかもしれないと感じた。自分達も演習を体験しながら、実際行う際の留意点などもわかり勉強になりました

(北関東・甲信越)

・地域づくりの木で、ナチュラルな資源は、日常の営みとして、特段意識されずに行われていることが多いため、住民も専門職も、このたいせつさに気づかない場合が多いが、日常の気につけ合いが重要であることが分かりました。

・ふだんの暮らしの中で、人や地域と接していることを5区分に分けて考えることで、偏りを無くせると思いました。

・同じグループのメンバーの考えや、他のグループの考えが聞けて有意義でした。

・コロナ過でも、孤立や孤独を除く例の図が分かりやすかったので、出来る事から実施して行きたいと思えます。

(北関東・甲信越)

・気づいていないだけでナチュラルな資源が地域にはたくさんあるということと、池田理事長の話にあった高齢者サロンを作ると話を持って行ったら反発を受けたが、地域住民が自主的に話し合う中で問題に気づいて高齢者サロンのような居場所が作られたという話は、どうしても行政的な上意下達式になりがちなアプローチ方法ではだめなのだとすることに気付いて新鮮だった。

(北関東・甲信越)

・木の絵の導入によって、ナチュラルな地域資源を振り返り、気づくことができる。課題(マイナス)から入ると住民のやらされ感になってしまう、地域を良くしようという思いから導くというやり方に共感。

(北関東・甲信越)

・地域で座談会を開催する中で、情報交換からの発展方法について悩んでいましたが、本日演習を行った「地域のつながり診断」が非常に参考になりました。今後活用させていただき、よりよい地域活動を進めていきたいと思えます。

(北関東・甲信越)

・ナチュラルな資源(木の根っこ)を地域住民と共に把握し、その価値を確認していくことによって、暮らしの中で何気なく行われていることに意義が認識され、つながりの重要性に気づくことができるため、今回のワークは是非、地域住民と一緒にやってみたいと思えました。

(首都圏)

・本来2時間のワークショップを短い時間での開催企画は、形式的で腑に落ちるに至らなかったのがとても残念です。概要、イントロのご案内であれば、紹介構成の工夫はいろいろとあるかとも思います。実習ありきでしたら、もうすこし時間をご予定いただき体験して身につけるといった構成がありがたく感じました。

(首都圏)

・とてもわかりやすい講義であった。今回の演習を実践することで地域情報＝地域の宝物の発見につながると思った。演習では、すでに木に見立てた時の縮図を見せたうえでのワークであったが、実践では、木を見立てた時にどの部分がどの資源としてかを空欄のまま、住民視点ではどう捉えるのかを聞いてみたいと感じた。

(首都圏)

・参加したチームの中で、自分だけの楽しみが一緒に活動している誰かを気につけ、お互いに見守ることを自覚しないままになっていたという発見された方がいました。

地域の方の小さな発見やストレンクスを一緒に体験し、言葉にならない声や感動を拾っていくことを忘れがちであったことに気づかされました。

また地域の方々から、言葉の説明がわかりやすかったので心理的なハードルが下がったとの声がありました。

(首都圏)

プログラムⅢ 地域の気にかける関係の発見の方法

・ Co研修でも地域づくりの木の實習があり、オンラインで学んだあと、近くにお住まいの女性4人でやってみました。いろいろ苦戦しましたが、ふだん地域のみなさんがどうやってつながっているかがよくわかりました。

今回は会場での實習（5包括のCoが同じ会議室で受講）はやはり、より、よく学ぶことができますね。実践してみてもうまくなかった部分（参加者からの引き出し方や仕分けのコツ）が、ちょっとわかった気がします。Coチーム、自分の地域でのつながりが薄いことに反省しつつ、担当圏域に戻って協議体などでさっそく実践したいとの声が全員から上がりました。私も、実践の機会を狙います。

(首都圏)

・ ワークが非常に有用であると感じました。普段意識しない木の根っこの部分の社会資源を意識化していくことの重要性を改めて再確認できた。今回は、行政と社協での参加でしたが、地域住民とともに、このワークをしたくなりました。

(東海・北陸)

・ 地域づくりを3つの視点「フォーマルな資源」「インフォーマルな資源」「ナチュラルな資源」と位置づけ整理する視点が新鮮だった。実は見えない根っこの部分のナチュラルな資源にお宝が隠されている事が、ワークの中でも体感出来た。

(東海・北陸)

・ 「地域づくりの木」ワークでは自分が何気なく行っていること・いつも訪れている場所がナチュラルな資源となることに驚きました。

また、日々の業務の中で男性高齢者の集いの場が把握できない点を課題と感じていましたが、数人の男性にこのワークを実施していただくだけで多くのヒントが得られ、芋づる式に資源が見つかるのではないかと期待がうまれました。男性への実施依頼を含めて検討し、是非地域で実践していきたいと思いました。

(東海・北陸)

・ ナチュラルな資源という考え方が新鮮でした。

プログラムⅠ・Ⅱでも、藤井先生から、「危機的状況の時は、これまでやってきたこと、できたことを掘り起こす」という内容の言葉がありましたが、新しい活動に気を取られず、今自然にやっていることを見直して、活動として意味づけするという考え方もできることがわかりました。

普段、住民の方から、たくさんの活動についてお聞きしているのに、住民としての自分がやっていること...と考えると、挙げられるものがあまりに少なく、自分の行動を見つめ直すきっかけにもなりました。

(東海・北陸)

・ 演習を行うことで、自分自身が地域でつながっていることを再認識し、グループのメンバーとの垣根が取れた気がした。この認識をボランティア研修で活かしていきたいと思いました。

(東海・北陸)

・ 演習を体験してみて、自分が日常している小さなことでも地域や健康とつながりがあるのだと実感した。住民と一緒にできたらと思った。

(近畿)

・ あいさつなどほんの少しの関りでも、気にかける関係の一つであり、ナチュラルな資源の集まりがインフォーマルな資源へとつながり、人と関わることによって発見された深刻な問題をフォーマルな関りへとつないでいく...という日常の福祉の大切さを学んだ。やり過ぎせず、気にかけることからつながりは始まっていることを考えると日常から意識を持つことの大切さを感じた。

(近畿)

プログラムⅢ 地域の気にかける関係の発見の方法

・木のワークは、とても面白かったです。木の「根っこ」の部分までイラストがあることで、普段見えていない「ナチュラルな資源」を見出そうという意識になるので、とてもいいなあと感じました。課題出しのように、ネガティブな情報ばかりになる研修も多いので、お宝やビジョンのようなポジティブな情報も分かち合えるように意識していきたいと思えました。

(近畿)

・実践できるワークだった。立場上、課題探しに目が行きがちなところに自分自身、嫌気がさしていたので、発想の転換になった。

(近畿)

・個人ワークをしたあと、グループワークをZoomで出来たことが一番の驚きでした。画面を通してのため、同一空間でのあじわいはなかったですが、実際にやってみることで、自分が地域住民へアプローチするイメージがわかってよかったです。一つの行動の中にもいろいろな意味があり、見える化することで発見があることがわかりました。

(近畿)

・演習については大変参考になりました。今後地域住民の方に向けた研修会などで実践してみます。

(中国・四国)

・「地域の方から教えていただく」と言いながら「どのように働きかけたら地域の方に分かってもらえるか？」と自分が考えていたことが分かった。「木の絵」を使って地域の見守り活動が実はできていることを住民の方と一緒に体感したいと思えます。ありがとうございました。

(中国・四国)

・地域住民の方と一緒に参加できていれば、地域の中での自分について考えてもらえ、他の市町の様子も一緒に学べる貴重な機会にできたな、と感じました。具体的なワークの進め方を教えていただいたので、ぜひ持ち帰ってやってみようと思えます。今回は個人参加で、グループの方々それぞれの立場で地域とどのように向き合っているかを垣間見ることができました。

(中国・四国)

・私たちの知らないところに地域資源が溢れていることに驚きました。地域で日々過ごす中の何の変哲もない出来事等が、実は地域の元気を支えているということを知ることができ、これから目を光らせて地域のナチュラルな資源を見つけていこうと思えました。また、その資源を活用して、インフォーマルまたはフォーマルなものへと形として実現していくことで、未来の見込める地域づくりを目指していきたいと思えました。

(中国・四国)

・地域づくりの木を参加者みんなで作り上げることによって、目に見える形にできたことがとてもわかりやすかったです。

(中国・四国)

・演習を行う中で、自分たちが一人の住民であることとして考えることの大切さを感じました。また、3つの資源に分けて考える中で、見えない根っこの部分に多くのつながりがあることも実感できた。今回は、住民を交えずに行ったが、住民の方がつながりを確認できる作業だと実感しました。

(九州・沖縄)

・地域のなかでの私が地域とどう関わっているだろうかと考えるとともに、グループメンバー等の意見を参考にナチュラル・インフォーマルな活動が地域にもたくさんあることに気づかされました。見えにくいものや関係性が「地域づくりの木」として表すことで見えやすいものになりました。ありがとうございました。

(九州・沖縄)

プログラムⅢ 地域の気にかける関係の発見の方法

・普段は業務のやり取りしかしないが、グループワークを通して、その人の人柄や普段どんなことを考えて仕事をしているのか再発見できた。これは地域でも同じで、人々の生活を支える本質的な部分は逆に見えにくくなっており、今後の社会においてはその見えにくい部分を再確認する、地域で共有することが必要だと理解した。

(九州・沖縄)

・生活支援体制整備事業において社会福祉協議会が「お宝さがし」をしていることに疑問を感じていましたが、木の図の話聞いて納得しました。「枝葉の部分を大きくすると木は倒れてしまう」、「土の中の根っこの部分は見えないことが多い、可視化していく」、「根の部分に入っていく」ということがとても必要だと感じました

(九州・沖縄)

・参加しやすいプログラムもあり、積極的に取り入れていきたい内容であった。特に、ナチュラルな部分については、普段意識されていないものの、支援者としては知りたい内容も多く含まれているのではないかと考えている。そのような地域の取り組みについて、積極的に話がなされるように、地域の方を含めて一緒に考えていきたい。

(九州・沖縄)

・「日常の気にかける」というワードが地域役員さんにかかなりの印象を与えていました。休憩時間中にも見守りを地域包括支援センターとの役割分担について積極的に話されていました。また、「ナチュラルな資源」については、私も深い学びになりました。地域のつながりは日常に隠れていて、気づいていないことに反省させられました。是非、地域でも考えてみたいと思います。

(全国)

・仕事以外のプライベートな地域でのつながりをお互いに話せたのが面白く、この小さなグループだけでも年代別、男女で人や地域と接していることに差がある事が学べました。手法としては、つぶやきを拾うこと、気になる話を流さず深掘することを心がけていきます。

(全国)

・目では見えない、また見えにくい「ねっこ」の話が印象に残った。会議に「よそのもの」として私たちSCが入ることで、地域では当たり前に行われている、無意識に溶け込んでいる「宝物」を、見える化できる可能性を感じた。

(全国)

・非常に丁寧に話されていました。

演習で付箋を貼る際に自分が聞き逃したのか、A4用紙ではなくダウンロードした資料の方へ貼ってしまいました。実際に例としてA4用紙に貼り付けた状態の物を示していただけるとわかりやすかったかな、と思いました。

(全国)

・「地域づくりの木ワーク」「普段の暮らしの意味づけワーク」はナチュラルな資源に気づくことができ、制度・サービスや互助以外の活動を見える化できる手法だと感じました。ナチュラルな資源が多いほど、人生が豊かになるということを実感できました。

(全国)

プログラムⅣ 地域をつくる多様な「担い手」と孤立を防ぐつながり人材の視点を学ぶ

・ワークを進めていく上で、立場が違っても同じ言葉でも捉え方が違うこと。そのため、最初に共通で取り組むことの確認が必要なのがありました。話し合う中で難しいこともありましたが、グループの他の方のお話を聞いたり、他グループの方の発表を聞くことで自分では気づかない視点からの意見もあり参考になりました。

(北関東・甲信越)

・言葉の整理・共通認識を意識することが大切だと教えて頂いたので、話し合いをする際には、その点に注意しながら進めたいと思います。階段ワークも初めて経験したのですが、皆さんの意見をお聞きして、色々なイメージの方法があるのだと気づきました。

(北関東・甲信越)

・担い手について、グループで色々な意見が出て、ひとそれぞれとらえ方がこんなにも違うことに気づかされました。階段ワークでも視点の置き方で入る言葉が違い、他のグループの意見もどんな意見が出るかわくわくしながら聞くことができました。

(北関東・甲信越)

・ここまで具体的な実践で活用できる研修に参加したのは初めてだったのでとても勉強になった。特に、言葉の整理・共通認識のところ、スタートラインを揃えること、落とし込む・絞り込んでいくというのは、色々な場面で実際に活用できる手法なので、今後は意識的に活用していきたいと思った。他グループで出た意見の共有にて、孤立の捉え方は様々で当事者の立場に立ち多面的にとらえアプローチするというのを改めて学んだ。又、担い手は、地域で暮らす方全員というところも新たな気づきで、広く柔軟な視点で今後の活動をしていきたいと思った。

(北関東・甲信越)

・自身が「地域住民」となり演習を行うことで、実際に地域で行う支援のイメージがつきやすかったです。担当している地域では「地域づくりに参加したいけれど、急にあれこれ任されることが不安」との声も聴かれており、本日の講義を参考に、スモールステップで参加しやすい地域づくり等も話し合っていきたいと思います。

(北関東・甲信越)

・孤立していたり、地域とつながりのない住民も含めて担い手と捉えて大事にしていくというお話にはっとさせられました。

「孤立をなくし、ひとりひとりに参加の機会をつくる」とは、そういうことなのだと思いました。

(首都圏)

・内容とワークショップ、そしてコメントのバランスが時間配分の中で、とても良かったと感じております。希望としては、3つ目のワークにももう少し時間の割り当てがありますと、グループとしてのまとめや、テーマ持ち帰りに至ったというすこし欲がございます。

(首都圏)

・グループワーク、各グループの発表の中で、様々な意見を共有できたことは非常に得るものがあった。"孤立"とはどのような状態を指すのか？その人になりきるというワークが難しかった。自分自身の回答にズレがあったことも皆さんと共有することで確認ができた。

どのようにアレンジして活かせるか、関係者とともにも再度練っていききたいと思う。

(首都圏)

・演習の際、「担い手」という言葉だけをとっても、チームの中の行政担当者と住民との認識の違いを目の当たりにしました。協議体のない地域ですが、このような研修を通してそれぞれの思いの分かち合える機会や場が協議体意識を創っていくのかもしれないと思いました。

(首都圏)

プログラムⅣ 地域をつくる多様な「担い手」と孤立を防ぐつながり人材の視点を学ぶ

・3つのワークそれぞれ、興味深く取り組みました。最初のことばの共通認識、簡略版になっちゃうかもしれませんが、ふだんの会議の場でもちゃちゃっと使ってみたいです。

階段ワーク、市民活動支援を20年近くしてきて、何となくやっていたことが言語化されてすっきりされました。いま、地域で活動者として取り組んでいる中で、新しい人を巻き込んでゆく流れとも重なりました。地域に住むみんなを担い手にとらえること、理屈ではよーくわかりますが、やるとなると大変。つねに頭に置いて仕事をしたいと思います。

「孤立」のワークも、みんなで考えさせられました。ロールプレイほど大がかりではないので、地域で支えあい活動のサポーター研修でも、30分くらいで取り入れられそうです。

最後に池田理事長からお話のあった「気にかける人」という担い手、じわじわ一つと意識してもらえるようにしてゆきたいです。

(首都圏)

・「階段ワーク」がとても印象に残りました。日頃、住民のみなさんに活動を提案する立場でありながら実際に活動を行う住民の方の立場に立って階段を昇ってみると、些細な踏み台がたくさんあることや、一人では昇りにくいことに気が付きました。気づきをもとに活動を提案するなかで行うべき周知やツールの活用の必要性を再確認することができました。

(東海・北陸)

・今回の参加は行政、社協、包括など専門職ばかりでしたが、住民が入ったときに、自分たちが担い手の一部だと、ずっと認識できる人がどれだけいるか疑問です。行政や、民生委員などの一部の人があれもこれもやるべきという意見が多く聞こえてきそうだと思います。

(東海・北陸)

・ワークを通して、共通認識を段階ごとに確認していくことが重要であると理解できた。また代弁者ワークについて、自分が携わる方々が当事者本人より地域の支援者が多いことから時折、支援者からの一方的な支援になっているのではないかと振り返るキッカケになった。

(東海・北陸)

・「担い手」と言っても様々な方がいるが、理解や捉え方も様々。共通認識が必要だと理解できた。階段ワークは一住民として考えた方、支援者側で考えた方と様々で、楽しかった。

また、孤立した人の立場に立って考えてみると、また新たな気づきがありました。

150分と長時間でワークをすることで疲労感はありましたが、あっという間に時間は過ぎたように感じました。田村氏の話し方、進め方、オンラインでの受講者への気遣い等、上手にされており、わかりやすかった。

(東海・北陸)

・地域づくりの「担い手」という言葉について、参加者で整理をして、共通の認識を持ってから、話し合いを進める事が重要である事を学んだ。「担い手」は地域に住んでいる住民で誰も「担い手」になれるという共通認識を作ることがスタート。

・階段ワークで見える化し、スモールステップで無理なく「できそう」という気持ちになれるように。

(東海・北陸)

・プログラムⅢで行ったワークを基礎に、もう一步踏み込んだ「孤立」についてのワークは、行政・包括の職員としてもなかなか難しい部分もありました。住民さんに行ってもらうにはまたハードルが一段高いようにも思われます。しかし、考えることをやめないことが支援につながると思うので、行政、専門職、住民に投げかけ続けたいワークであると思いました。

(近畿)

・階段ワークも、とても面白かったです。空欄を作ることで、それを穴埋めしようとして、アイデアが増えるのはもちろん、グラデーション（多様性）に気づくことができるというのは、とても考えられているなあと感じました。いろいろな場面で使っていききたいと思います。

(近畿)

・階段ワークは地域づくりのいろんな場面で使えると思い、大変参考になりました。社協職員のコーディネータはつい、ゴールを決めて、大きな階段を作って失敗しがちです。目的を原点にかえて、スモールステップの積み重ねを住民とともに考えていききたいと思います。

(近畿)

プログラムⅣ 地域をつくる多様な「担い手」と孤立を防ぐつながり人材の視点を学ぶ

・求心力を持った個人が推し進めるのではなく、地域の住民皆が「担い手」である。多様な考えを持つ参加者の共通認識を深めること、それぞれの考えを知ることから始まる事を学んだ。孤立している人はどんな人なのか？「地域の困った人をどうしたら良いのか」ではなく、孤立した状況にある本人になりきって、当事者が何を見て何を考えているのか想像してみた。

(近畿)

・メンバーにめぐまれて、ワークでのコミュニケーション、楽しかったです。同じ職場ではやりたくないなあ、と感じた（それではいけないのでしょうか）。

(近畿)

・扱う言葉や伝え方によって、反応が大きく変わることについて悩んではいるものの、今まで深く考えていませんでした。そこで、住民から意見を聞くときは、話す言葉の準備を入念してから臨もうと思いました。階段型にするとわかりやすかったです。階段を登らないといけないわけではないですが、今の自分の位置を俯瞰してみたり、何がハードルになっているのかを特定するには良い方法でだと思い、真似したいと思いました。

(中国・四国)

・担い手の捉え方を住民全体だと思えなかった自分に気づき、現実だけを直視するようになったのだなと少し悲しくも感じました。地域=住民=全員が担い手、そのような地域になる事を目指してこれからも進んでいこうと思いました。グループワークの進め方がとてもスムーズで学びになりました。

(中国・四国)

・「担い手」とは、誰を意味しているのか。このことについて、対象となるのは、自分自身でもあり、地域にいる全ての人々が担い手となることを学ぶことができました。担い手として、地域で活動していくにあたって、スタートとゴールを設定し、それまでの過程で何が必要かを細分化することで、一つのステップを低く設定でき、負担を最小限に抑えることができます。また、個々人で動くのではなく、様々な業種の人たちや住民の方々を巻き込んで共通認識を持って一つの事を考えていくことが重要なのだと分かりました。今回学んだ、「階段ワーク」をもとに担い手としてすべき課題と目標を設定し、一段ずつ駆け上がっていけるようなプランをグループで考えていきたいと思います。

「孤立」している人とはどんな人なのか。当事者はどんな感情を抱いているのかについて、ケースに照らし合わせながら、当事者の気持ち側に立って演習をすることができました。孤立している方にも様々な感情が渦巻いています。しかし、「助けてほしい」と思っている人も中には存在しています。地域で嫌われている人、孤立している人の個別の状況に応じて対応策を練っていく必要があると思いました。この演習を通して、客観的な視点で物事を捉えることができ、幅広い視点で考える重要性を学ぶことができました。

(中国・四国)

・地域を作るのは一人一人であり、何かしらの形でできた集まりが「地域」となっていくことを再認識できました。スモールステップを踏みながら、住民の皆さんが楽しいと思える空間を作ることができるよう支援していきたいと思います。また、私個人としても、友達や近所の方、祖母など、ちょっとしたつづやきに耳を傾けていきたいと思います。

(中国・四国)

・代弁者ワークの時は、テーマの設定でつまづいてしまいこれでいいのかなと思いながらグループワークを行いました。他のグループの発表を聞いて、自分達はそこまで出来ていないと感じたため、テーマの決め方などをもう少し詳しく説明するとワークも進めやすいのではないかとグループ内で話が出ました。

普段生活している中で、なかなか考えることのない内容だと思うのでとても有効的なグループワークだと感じました。

(中国・四国)

・自分が考えていた担い手とは違うたくさんの担い手が周りの人たちから教えられたことですごくありがたかったし勉強になった。

(九州・沖縄)

プログラムⅣ 地域をつくる多様な「担い手」と孤立を防ぐつながり人材の視点を学ぶ

・演習を通して、実際にある例だけでなく、見えない方に対してのイメージを行うことにつながった。担い手や、孤立に対する考えなど地域づくりに必要な視点を改めて感じることができました。

(九州・沖縄)

・共通言語、見える化して視点を合わせることから階段ワークや代弁者ワークを通じて、「孤立」を深めて考えることができました。個人的には階段ワークのBはなかなか難しかったです。メンバーの意見等がとても参考になりました。代弁者ワークも難しかったです。想像力を働かせることの大切さ。ありがとうございました。

(九州・沖縄)

・行っていただいたワークはとても面白いもので、参加者それぞれの違いを学ぶこともできた。様々な部署の方や、専門職の方、地域住民の方など含めて、ぜひ取り組んでみたいと思う。

(九州・沖縄)

・地域の課題として「人材不足」「担い手不足」があり、適当な人がいないと思っていましたが「地域住民全員が担い手」と考えるきっかけができました。特定の人、特別な人が何かをするのではなく、みんなが担い手感を持ち共通認識のもと携わる場面があれば地域は活発になると感じました。

(九州・沖縄)

・考えの違いを楽しむ時間となって面白かったです。発言、発信の中でエッセンスを受け取ってどれも大事にしながら方向作って行くのは難しさもあるけれど面白いと思います。参加する人が参加している感を持って楽しむためにファシリテーション、話し合う場の設定、進め方もとても大切と思いました。孤立を防ぐために楽しく話ができるように考えて行きたいです。

(全国)

・グループワークは、どれも目新しいものでしたが大変丁寧にして頂き、学びを深めることができました。「階段ワーク」は地域で取り組めると良いなと思いました。もう少し勉強が必要と感じましたが...。代弁者ワークはとても良いグループワークになりました。これまで支援者側の視点ばかりでしたが、このような機会はほとんど無く、当事者意識の大事さを学びました。

(全国)

・担い手の階段は新しい視点だった。サロンに参加、そして運営者にとコアな存在を期待し、様々働きかけてきたこともあるが、階段を見ると一足飛びにアプローチしすぎていたかもしれないと反省があった。A・B・Cに入る行動を考える際、働きかける側と一歩ずつ歩む当事者の視点を考えると、どうしても働きかける側の視点が強くなり、地域住民の視点への寄り添いや理解が不足していることに気がついた。

(全国)

・いくつかの演習について、それぞれの思いつくことが異なり、それを共有できるのは演習の効果だと感じました。階段ワークは、きちんと現状を把握し目標を設定できれば、乗り越えるべき課題などわかりやすくなるのではないかと思います。また言語の共通認識は大切だと思いました。「担い手」について、率先して活動している人から、赤ちゃんや高齢者、病院などの場所など、イメージするものが考えている以上に幅広いと知らされました。

(全国)

・「階段ワーク」「代弁者ワーク」はとても楽しく、勉強になった。「担い手」というとハードルが高く感じることもあるが、もっとハードルを下げて皆さんが気軽に関わっていけるように工夫すると良いと思った。

「代弁者ワーク」では、グループのメンバーで設定を考えてその人になりきることで、当事者の気持ちが分かったような気がした。職員の立場からではなく、地域の方目線で物事を考えるようにし、大切な事を見逃さないようにしたいと思った。

(全国)

プログラムV クロージング

・印象に残ったこと...コロナ禍で様々なことができていない状況ではあるが、力を合わせていきたい。今日学んだ良い例を参考にしたい。安否確認や見守りの次のステップへいかなければならない。地域福祉や町づくりは範囲が広いことを改めて感じた。住民ひとりひとりの意識を大事にしたい。今後つながりたい人や組織...地域では除雪が課題になっているため、地域の他業種（商工、建築関係）の方とお話をしたい。

(北海道)

・共通言語の統一化が図れないと共通認識のもと議論が深まらないという点は納得する部分だった。また、資源の分類においてフォーマルとインフォーマルに分けることが多いが、当研修では「ナチュラル」という地域の基盤となる資源を提示されており、この点についても納得する部分が多かった。潜在化されている資源を見るという視点が欠けがちであるため、いかに意識していくかが重要だと感じた。

(北海道)

・演習を中心に「当事者の視点に立つ」ことや「自分の視点ではない方向からの考察」が盛り込まれていることで日頃の取り組みに参考となりそうな多くの意見を共有することができて有意義でした。地域包括や社協の職員が多いグループだったため、最後のほうは社協と包括、または社協同士、包括同士、異なる機関での日頃の連携の取り方ということについて話し合っていました。規模の大きな自治体になるほど包括の数や社協でも分会等が増えていき、日頃の連携が難しく、意識的に情報交換する必要がある等の意見が出ていました。

(北海道)

・今回の研修では、演習が多く地域住民の方と取り組めるようなものを紹介していただき、今後地域福祉を推進するうえで、活用したいと思うものばかりでした。今までワークショップに興味を持っていたものの、福祉に対して関心や意欲の薄い方と行うことの不安を感じていました。しかし、演習やワークショップをきっかけに、仲間意識や主体性が生まれると感じとてもメリットを感じました。そのための仕掛けや内容の充実を、この研修を参考にこれから考えていきたいと思えます。

(北海道)

- ・○新たに気づいたこと、印象に残ったこと
- ・言葉の整理や共通認識を持つておくことの重要性
- ・察するのではなく、言葉に出す
- ・(講義Ⅲで示された)地域づくりを木に例える考え方について、根の部分であるナチュラルな資源を再認識すること
- ・住民が日頃当たり前にやっていることが、支えあいだと気づくことができれば、それが地域に根付くのではないか
- ・(講義Ⅳで示された)階段の考え方について、あのようなイメージで細分化して物事を進めることが重要である

○今後つながりたい人や組織

- ・(普段なかなか関わることがない)50～60代の方
- ・地域の方と改めてつながりたい ※同様の意見多数
- ・法人の役員(今後、伝え方・話し方を良い方向に変えられそう)

(北海道)

・本日の講座オープニングのお話で「地域福祉」は「地域共生社会」へ、ニーズによって変化を求められていることの社会・文化の背景を理解することができました。それはパラダイムシフトと呼んでしかるべき壮大な＝社会全体の変革が必要では？と思ったりします。…ちょっと...底なしの深淵を覗いてしまった気も致しました...<(_ _)>

(東北)

プログラムⅤ クロージング

・見えにくいところで誰かと繋がれている地域住民も少なくない、また見守る対象と思われる人が地域ネットワークの大事な1人だという事を再確認できた。私の担当地区の第2層協議体は、中高年で福祉関連の肩書きをもっている人や高齢の自治会長さんなどで構成されているが、本来なら若者や企業なども参加するのが理想なのだと感じた。今後、そういう立場の人とも顔の見える関係を作りたい。
(東北)

・今後自分の足腰が弱っていったとしても、何らかの形で地域づくりに関わりを持っていきたいと感じた。
・以前に家族の介護により地域で孤立してしまい、困り果てていた時に力になってもらった経緯もあり、自分も繋がりを保つ場を作って誰かの力になろうと活動を始めました。現在も周囲の協力を得ながら継続している。今回の研修は、人との繋がりの重要性を再度考える機会となった。
・個人で訪問などする際に拒否されたこともあり、一人で繋がりがづくりの活動は二の足を踏んでしまう。グループや団体などの組織での活動が良いと感じる。
・無理のない範囲で繋がりを作りたい。
(東北)

・今までは、退職した方が担い手の中心であった。住民全員（子ども、障がい者、要支援者も含む）が担い手になることを学んだ。
・自治会長という役職ではなく、一住民として関わっていく（役職を降りた後もつながる）。
・孤立している人について、視野を広げたい。見えないところでつながっている人もいる。
(東北)

・同じ福祉の分野で仕事をしていても同じ場での研修機会がなかったため、関係機関同士が同じことを学び、意見交換できたことは有意義な時間だった。みんな地域住民であり、専門職も住民の立場で考えることの大切さに改めて気づいた。人づくりが地域づくりにつながることを学んだ。研修内で行ったワークや住民への伝え方を今後の活動で参考にしていきたい。
(東北)

・協議体で話し合いを進めていますが、課題を解決しようとしてもなかなかうまくいかず、課題をつぶしていくより、ビジョンをみんなで考えていくという話しがとても印象に残りました。
(北関東・甲信越)

・同じ立場同士で話し合うことも大切であるが、地域づくりにおいては様々な立場の人が交じり合っ話し合うことが大切なのだと感じた。専門職が主となって行うのではなく、地域住民の中に専門職が混ぜてもらい、一緒に情報共有をして地域について考えていくことができれば、地域住民主体の地域づくりが行うことができると感じた。
(北関東・甲信越)

・リフレクションとするには、ちょっと時間的に厳しかったかもしれません。参加者数や1日のプログラムだったことを考えればしょうが無いかもしれませんが...。
(北関東・甲信越)

・参加者同士で研修の振り返りを共有出来て良かったです。同じ研修ですが、感じたこと・受け取り方の共通点・相違点などを言葉で共有しておくことが今後の連携のために必要だと思いました。
(首都圏)

・演習で本研修のそれぞれの感想をシェアしたとき、研修を申込んだときは「自分ではでいいのか」「難しくわからない」「ついていけないかも」としり込みしていた地域の方々が、イキイキと意見を述べ合っていました。講義と演習を通して意識や姿勢、協同体的なつながりが細いですがつながってきた気がしました。
(首都圏)

プログラムV クロージング

・仕事での話ではないのですが、地元で子ども食堂（地域食堂）を運営していて、「地域ぐるみで3世代」ということばが、すごくしっくりきました。コロナ禍で会食ができず、お弁当やフードパントリーをとおして子どもやそのママパパを支援する活動ではありますが、フードドライブに参加してくれる高齢者や、実は地域でひっそり暮らしている難民まで、幅広くお付き合いができました。内部では「それって子育て支援？」という声が出るたびに、「いえ、子育て支援も含む地域づくり」と話してきましたが、そうか、私たちは「地域づくりで3世代」「地域共生社会」に取り組もうとしていたんだなー、と、ようやく言語化できて、すっきりしました。

ということは、コーディネーターの仕事でも、子育て支援や障害など、タテの仕切りを超えてつながることも大切だなー、というところに行きつきました。高齢者に限らず、「孤立」はあるもの。だれかの孤立を、別のだれかの孤立を支えることができるかもしれない。やわらかい頭で、地域を歩きたいと思いました。

(首都圏)

・問題から課題を見つけるだけでなく、今できているストレングスの視点も住民との話し合いでは必要であると学んだ。専門職、住民の立場の違いの垣根を取るには、必要な視点であると感じた。

(東海・北陸)

・グループ内で研修の振り返りを行うことで、日頃同センター内にいながら関わる機会がなかったみなさんと関係を深めることができたと感じている。また、自分が課題だと感じている点を投げかけてみると思いがけないヒントを得ることもできたため、この研修で深めた仲を今後もいかしていきたいと思えます。

(東海・北陸)

・「スーパーでも気にかけてくれている店員がいて、SOSをキャッチしてもどこに繋げていいかわからないことがある」ということを聞いて、どこかで自分が支援者＝役を持った住民という固定概念に囚われてしまっていたことを痛感できた。

(東海・北陸)

・グループ内で、今回の研修を振り返ったことで、今後、行政と社協が協力して、今回学んだことを活かした地域づくりを目指していこうと改めて気持ちを固めることができたと思います。

全体共有の合間に、山本先生が、ムダ話することも大切！とおっしゃっていて、勇気づけられました

(笑)

(東海・北陸)

・人口規模により多様な孤立があり、当事者の気持ちになることは難しいことではあるが、地域作りには当事者目線（想像力）、多角的に捉えるチームアプローチ、地域資源を把握し地域とのつながり活用するためのコーディネート力を持つ事が、支援者としての専門職に求められる視点であることを学んだ。

(東海・北陸)

・グループワークにより、他県の取り組みや立場の違う人と、忖度無しで話す機会になったことが自分の中で非常に大きかった

(近畿)

・教えていただいた木に付箋を貼る研修を実際にやってみることで、日常の中で自然にできていることをクローズアップできたらいいなと思った。問題解決よりも出来ていることを見つけ出す方が次の一歩に繋がると思った。

(近畿)

・午前、午後と、それぞれ違う視点からの講義、演習を受講し、それを総括されるお話のなかで、組織、立場、年齢、性別などそれぞれ異なる人が交わるのが「地域」であり、それを理解し、コーディネートしていくためには、広い視点が必要であることがよく理解できました。自分自身がどのような視点で〇〇と考えているのか、当事者の視点としてはどうか？など、今後の地域支援だけでなく、個別支援などさまざまな場面で活かしていけると思います。

(近畿)

プログラムV クロージング

・最後に、研修で学んだことをグループワークで話し合い、1日研修で学んだことを話し合い思い起こすことがより記憶に残ると思いました。今後研修を企画する際の参考とします。

(近畿)

・うなづける内容は多かったが申し訳ございませんが、ワークが終わって集中力が切れていた。全体の時間が、オンラインとしては長かった。

(近畿)

・グループワークの時間が少なく感じるくらいとてもよい時間でした。

(中国・四国)

・参加者の方のいろいろな意見が聞いて良かったし、全国で同じように取り組んでいる人々がいると知り、うれしかった。(仕事場で担当者が一人なので、つい、孤独になりがちであったから。)

(中国・四国)

・一期一会を惜しむ声も出た振り返り。地域の仲間たちと参加したかったの声もありました。

(中国・四国)

・私たちのグループは、行政・包括支援センター・社協各課から参加でしたが、これまで協議する機会がなく、今後は本日参加したメンバーを含む関係機関で定期的な話し合いができるように働きかけていきたい。

(中国・四国)

・講義を経てただ単に良かった、ためになったと思うだけではダメで、実践することが重要であるとの指導があり、いろいろな講義を受けても、フィードバックしなければ効果が半減以下となることを実感しているところです。

(中国・四国)

・自分として、身近な地域をいろいろな視点で考えることができました。住民の方と一緒に地域を考えることができる多くのワークや方法についても学ぶことができました。ありがとうございました。

(九州・沖縄)

・参加したグループの着眼点が、それぞれ違っており、幅広い案件であることに気づかされた。

(九州・沖縄)

・学んだことの振り返りができた。また、他市町村の方の声を多く聞くことができ、参考になった。

(九州・沖縄)

・住民の裏側はみんな専門職、人が集まれば財産になるという言葉が普段の生活支援コーディネーターとしての動きに照らし合わせながら、改めて自分たちの取組みを考え直すことができました。

(全国)

・「新しく創る」ことを考えるよりも、地域にあるものを見直すことの大切さを繰り返し聞くことができ、なんとか実践できるように努めたいと思います。地域は多業職集団であるなどの捉え方が新鮮でした。

(全国)

プログラムⅤ クロージング

・地域は専門家集団だった！まさにその通り。生まれたときから高齢者でも引きこもりでもないのだ。そう思うとその人の人生が尊く思える。そんな気持ちで地域を愛おしく感じていきたい。

(全国)

・今回、市の高齢福祉課、同じ事業所の別の担当者と共に講義を受け、方法論や気にすべきところなどを共有できたことは、今後の連携に大変有意義だと思いました。

(全国)

本日のテキスト内容についてご意見をお聞かせください

・この研修の中だけで終わるものでなく、今後地域福祉を進めていくうえで指針として活用したいテキストでした。

(北海道)

・まだすべてに目を通せていませんが、レイアウトや色合い、構造化された例示に加えて、事例や実践者の声などが散りばめられていて、専門職だけでなく実践者（地域住民）と共に学ぶこと、共通認識を図ることに適した教材だと感じました。

(北海道)

・テキスト内容も講師の方たちの講演内容も今現在の地域に対しての問題点と合致している点が多く、そこについてさらに深く知れ、同じ専門職の方たちとも交流をし、意見を交えたので内容も通して全体的によかったなと思います。

(北海道)

・本日研修させていただいた内容を地域への活動の際に活用して良いというこで捉えてよろしいんですね？チャンスがあれば地域づくりの木、地域づくりのツールとして使用したいなと思っております。

(北海道)

・田村氏のワークは、「言葉の共通認識ワーク」「担い手を巻き込む階段ワーク」「当事者理解ワーク」と今後の活動の上でヒントを得ることが多かったです。

(北海道)

・地域づくりの木、芋づる式のネットワークなど図や写真が多くわかりやすいです。また、事例も多いので、たくさんの成功事例から具体的にイメージすることもできました。さらに、行政職員のための養成研修や、庁舎内連携についても記載あったのは、大変ありがたかったです。当町は、地域創生戦略と合わせた総合計画策定が進んでいるので、その中で、福祉サイドとの連携メリットが記されていたのは、大変役立ちます。

(東北)

・資料が多く、専門的な用語に混乱される方がいました。

(東北)

・カラー版で分かりやすく構成されていると感じます。特に、8ページの藤井先生が作成した図ですが、自分自身の役割として「ようやく説明できる図が出来た」と感じ感謝しております。

(東北)

・演習中心で、講師のパワポ中心になってしまい、研修の中であまりテキストを使っていなかったのので、せっかくのテキストをもっと使用できればいいと思う。

(北関東・甲信越)

・テキストのマンガでは、どの地域でもあり得る内容で、孤立に気づくこと、気づいただけで終わらせずに声をかけ、孤立させないきっかけ作りも参考になりました。

事例も、とても分かりやすかったのので、自分達の地域でも今ある支え合いの発掘や、少しずつでも出来る事から始めていければと感じました。

(北関東・甲信越)

・いつもながらCLCさんの研修について資料が整っているので、コチラも報告する際にまとめ易いと感じています。ありがとうございます。

(北関東・甲信越)

本日のテキスト内容についてご意見をお聞かせください

・専門職にありがちな「地域の社会資源を活用する」のではなく、「地域から活用される資源となる」ということが腑に落ちました。また、公的資源につなげば地域の役割が「一段落つく」という考えが無意識でも自身にあったことを反省するとともに、そこで地域の役割が途絶えないようなことを考えていくことの重要性に気づかされました。

(北関東・甲信越)

・今回の研修をとおして、職員間で地域と連携することについてテキストを用いて話し合いの場が持てるとよいと思いました。

(北関東・甲信越)

・演習も多く、グループ内で色々な意見を共有することが出来、良かった。ZOOMでもここまでグループワークがスムーズに出来るんだと研修への参加への意欲が高まった。

(首都圏)

・DLテキストのボリューム（ページ）が多く、またプログラム毎のコンテンツもございましたので、ご提供いただける情報量としては、とても充実していると感じ感謝いたしております。ただ、ご紹介の中では、出力して手元にある前提での展開でもございましたのでPDFをPCやタブレットでブラウズしながら画面の講義をうかがうのは少し辛いところもございました。Zoomオンライン画面の機能を少し超えているご紹介ではとも感じました。

(首都圏)

・テキストは地域の方にとっては難しいと感じるものでしたが、わかりやすい言葉が使われていたため、講義についていけたという意見がありました。

午後は講義のテンポが速く、テキストにないスライドがあったため、できたらすべてのスライドが入ったテキストが後からでもいいので欲しいです。

(首都圏)

・研修の項目ごとに資料に番号を付けていただくと、わかりやすかったです。

(東海・北陸)

・全体を通して、業務に反映させていきたい内容ばかりではあったが特筆すれば（今回、特別触れられていなかったが）単元4の解説5に記載の内容（芋づる式地域の歩き方）についてがとても興味深かった。というのも、こういったことの繰り返しがナチュラルな資源（地域の基盤）の掘り起こしにとっても重要だと感じた為である

(東海・北陸)

・まだすべてを読み込んではいませんが、今回の研修の内容の詳しい説明があったり、全国のたくさんの事例が掲載されていたりで、今後の地域づくりの心強い味方を得たような気がしています。

(東海・北陸)

・Zoomの時はその研修で使用する部分の資料だけをいただきたい。

(近畿)

・地域づくりの人材養成について、いいヒントになるワークや考え方が詰まっていると思います。ただ、このテキストだけを読んだだけでは正しいやり方やファシリテーター側の考え方はわからなかったもので、今回の講義を受けて初めて身になったように思います。

(近畿)

・とても分かりやすくまとめていただいていると思います。

また、何度も読み返して学びを深めたいと思います。

午前の藤井先生の講義資料は、1枚スライドで説明されていましたが、もう少し解説を細分化していただけると、後の復習に活用できると思いました。

(近畿)

本日のテキスト内容についてご意見をお聞かせください

・今まで、課題抽出の研修がほとんどだったので、目から鱗でした。とても良かったです。
(近畿)

・半年前に職場を回覧で回ってきた時から内容が素晴らしくコピーを取らせていただいていたと思います。よい内容だと思います。最初 有給という言葉がどんな意味なんだろうかと思いましたが 福祉や支援をすることで代償をいただくことなりました。当たり前のようにないか。ここ3年間 コーディネーターとして いつも何ができていないかと情報を得ることや混ぜてもらふこと。巻き込まれることを期待して外に出たりSNSつながりを持つことを心がけていました。学んで楽しみが持てるようになりました。
(近畿)

・研修の中では確認できていないことが多いので、ゆっくり確認したいと思います。また、テキストがあることで手元に置いておきやすいのでありがたいです。その都度、参考資料として活用したいと思います。
(中国・四国)

・テキストはカラーで読みたいと思う短い単元構成であり、漫画を使うという手法もあり発見が多かったです。
(中国・四国)

・とても分かりやすい資料なので、職場の仲間にも伝えたいと思います。復命をした内容から他の職員が何を感じ取るか聴いてみたいと思いました。
(中国・四国)

・当日資料が多すぎ。事前資料を元に話すのか、事前に当日資料が欲しい。
(中国・四国)

・事例がたくさん掲載してあって、とても興味深く拝見させていただきました。参考にさせてもらうときは自分の町と同じくらいの人口や高齢化率などを確認することが多いので、とても分かりやすかったです。
(中国・四国)

・とても分かりやすかった。庁内でも共有したい。
(九州・沖縄)

・テキストを解説して下さったことでより理解が深まった。仕事、住民など視点をかえてみることで考え方がかわる、広がると思いました。
(九州・沖縄)

・特にプログラム4の方は資料のグループワークの部分では表題が無く、話し合いの際に画面から消えてしまっている事がありました。出来ればグループワークの資料に表題をつけるか、画面に出したままにしてもらうかいずれかをして頂きたかったです。
(九州・沖縄)

・事例とどの自治体が行っているかまで載せてもらっているのが、必要時間い合わせることができ参考になります。
(全国)

本日のテキスト内容についてご意見をお聞かせください

・テキストを予め読み込んでおけば良かったと反省。内容はとてもためになり、漫画で記された部分を元に、意見交換をしていってもよいかと思った。

(全国)

・フルカラーで多様な事例が紹介されていて、大変見やすく分かりやすい。自分の地域・仕事にもすぐ試してみようと思える内容でした。

(全国)

・グループワークは全体的に楽しく出来たので、少し内容を変えて自分の活動の中でも実践してみたいと思った。テキストには事例もたくさん載っているので、参考にして、できることから始めてみたい。

(全国)

本日の研修を受けて考えたこと、気づいたことがあればお聞かせください

・非常にためになる研修でした。

地域住民の方、他の専門機関などとの協働ももちろんですが、まず自分の所属している組織に情報を共有し、地域福祉についてを再考できる機会としていきたいとおもいます。また、自身もいち地域住民として、自身がプライベートで所属している町内会や近隣の方とのかかわり方を改めて見つめなおしてみようと思いました。

(北海道)

・最初のブレイクアウトルームの展開から、全日程通しての組み立てがシステム化され、充実感あふれる研修となりました。時間の余裕があれば、他のグループの方ともお話出来れば良かったのですが、この展開では難しいですね。

(北海道)

・司会の声の大きさや、講師の方たちの話すスピード、映像画質など今回の研修すべてを通してスムーズに動いており、とても良かったのではないかと思います。

また、コロナウイルスという脅威がある中でのこういったオンラインでの取り組みを行えることは今後の自分たちの為にもなるので、とても良い取り組みをしているのではないかと感じられました。

(北海道)

・今回は、グループワークの回数があり良い意見交換が出来た。

印象に残っていることは、「担い手」は、私たち支援者も地域で暮らす住民として担い手であることは、気づかされました。又、困る前から地域と繋がって行く事、社会参加をして行く事、研修の目的でもある「仕事としての私」「住民としての私」を意識し、様々な視点を意識して今後の支援にいかして行きたいと思いました。

(北海道)

・講義Ⅳで「地域の担い手」についてのグループワークを実施したが、「担い手」の捉え方がメンバー内でそれぞれ異なっていた。どれも正解であり、どのような側面から物事を捉えるかで本当に色々な考え方ができるということは、一方で大きな誤解を生む危険性もあると感じた。

どんなに簡単な言葉でも、人によって解釈が変わるということを、様々な場面における前提として認識しておきたい。

(北海道)

・木の図のワークと、階段ワークは実践で活用しやすいと思った。全ての住民が地域づくりの担い手だが、必ずしも全員がステップアップする必要はない、という点を忘れないようにしたい。サロンが無い地域に行くと、誰かサロンを立ち上げられそうな人はいないかと探してしまうけれど、サロンが無くても助け合って生活できている現状を認め、住民一人ひとりが今できる社会参加をしてもらえるようにサポートするのが生活支援コーディネーターの役割だと感じた。

(東北)

・今回の研修で、他の市町村の方とグループを組めて、参考になったところが沢山ありましたが、演習は同じ地域の方々で行えば、より具体的な発想ができたなと思いました。次回は数人で参加したいです。6名以下でも自治体グループの参加を認めていただけたら嬉しいです。

(東北)

・とてもわかりやすく、グループ参加者から、ある一定の共通の考え方（方針）を共有できて良かったという意見がありました。行政目線による地域づくり（行政の思い込み）をするのではなく、多様な考え方が共存している地域の中で、住民目線でその地域に住んでいる住民が主体的にどんな地域になることが良いのかを住民が自ら考えていける場（グループワーク）を作りながら一緒に考えていきたいと感じました。

(東北)

・グループ討議において、市役所、社協、福祉団体・機関と討議ができたのはよかった。一企業ができなくても様々な機関が集まれば強い矢となることを痛感した。

(東北)

本日の研修を受けて考えたこと、気づいたことがあればお聞かせください

・1日の内容としては長時間であることが気にはなりましたが、全て必要不可欠なプロセスだと思うので、特に地域からの参加者についてはしっかりと人選して参加依頼したいと思います。

(東北)

・地域の担い手は地域のすべての方であるということが印象に残りました。また、本人の考えや気持ちを理解すること、地域の当たり前にあることに気づくことができるようになることが出来るようになりたいと感じました

(北関東・甲信越)

・今回は、担当職員のみ参加となってしまいましたが、協議体の核になる人なども一緒に受けられたら良かったと思いました。

(北関東・甲信越)

・とても進行がスムーズで受講しやすかった。他県や包括以外の方と話ができ新鮮だった。普段地域づくりの研修の機会がほぼないので、ここまで具体的な研修に参加できてとても勉強になった。普段、業務に追われなかなか研修に参加することが難しいが、ZOOMであれば時間を作り参加することができるので、またぜひ学びの機会を作って頂ければと思う。

(北関東・甲信越)

・住民目線の大切さ、共通理解、横のつながりなどこれからやらなくてはいけない課題が山積みですが、事業を考えていくうえでとても参考になりました。

色々な方の意見も聞けとても良かったです。

他市町村や他県の方とのグループワークもしてみたいです。

(北関東・甲信越)

・研修が1日の中で過密に組まれていたため、演習時間などで自分の意見がうまくまとめられずもう少し欲しいなと思うところがありました。また代表発表もありましたが、今回参加された全グループの詳細が知ることができたら面白いなと思いつつ、自分たちのグループでもうまく集約しまとめ共有は出来なかったの、研修を受けつつ、まとめをデータとして共有できる時間と仕組みがあれば...と思いました。

(北関東・甲信越)

・幅広い内容を1日でまとめていただき、感謝でございます。その反面、活動体のPRや次のセッションへのお誘いのようなところも感るところがございました。

また、ワークショップメンバーをご設定いただき、いろいろとプログラムを通して交流させていただきご縁をいただきましたが、もしお願いできるとすれば せっかくの交流機会ですので、終了後にフリーグループディスカッションのお時間など15～20分ほどご予定いただけますと、嬉しく感じました。

(たとえばお昼休憩1時間の後半30分はグループフリーで対話させていたけるZoom設定などいただいてもよかったかもしれませんね)

(首都圏)

・先生のお言葉の中に、専門職である者はどうしても対象者をケースとして捉え、先を先を考えての動きをしてしまいがちという指摘があり、心がけているつもりでも、その人の立場に立って考えて背景を知って想像できていたか、ハッとさせられた。

また、「孤立」についてのワークを受けて、「孤立」「孤独」とは何なんだろうと帰宅してからも考えた。日頃地域で孤立しているという対象者の話をするところがあるが、実際にはつながりを持っているかもしれないと考えると孤立していないのでは？とも考えてしまった。地域にいるすべての住民が「担い手」である、支えられる側か支える側かどちらも相手があることにつながっているということは理解できた。言葉にはズレ＝多様な意味がある。地域のなかで、自分自身を「孤立」と受け止める方が1人でも少ない、人とのつながりのある地域を作っていけたらと思った。

(首都圏)

本日の研修を受けて考えたこと、気づいたことがあればお聞かせください

・今回初めて研修に地域の方に声をかけ参加いたしました。地域の方々からこういった研修の情報がなかったの、「受けたかった」「長くて疲れたけどよかった」という声を頂きました。この研修は地域活動の企画の一環として参加しました。今後も活動の中に研修を組み込んでいこうと考えています。ありがとうございました。

(首都圏)

・私ごとですが、一昨年、社協を退職して、昨年、地域で子ども食堂を立ち上げたあとに、生活支援コーディネーターの仕事をはじめました。社協時代は市内に住んでいるため、仕事上の立場や役割に縛られてしまっていたのですが、いまは住んでいる地区の隣の圏域のコーディネーターなので、仕事もプライベートも気楽な身です（笑）。

今回の研修を受けてみて、コーディネーターという仕事の立場と、子ども食堂の実践者という立場、行ったり来たりしながら考えている自分に気がつきました。午前の地域づくりの木もそうだし、午後の階段ワークもそう。コーディネーターなら地域にこう動いてもらいたい、と思うことが、地域住民から見たらいかに押し付けで失礼極まりないことか（笑）ということに気づくきっかけになったように感じています。今回はコーディネーター5人の共通体験をと参加しましたが、次回は地域の人や福祉以外の部署（防災とか）の役所の人とチームをつくれるようにしていきたいな、と思います。あるいは、私も地域住民側で参加するとか。

あつという間の1日をありがとうございます。

(首都圏)

・私たちの地域でも2つの自主グループが屋外に出て公園でラジオ体操を行っているが、同じような取り組みを講師や参加者から聴けたので、全国的に調査をすると、コロナ禍での実態が浮き彫りになると非常に興味深く考えた。

たとえ孤立していると思われる人でも、実は地域の繋がりが深く声を掛ける関係性があるなどの話題もあり、まだまだ私は地域の根の部分を知らないと感じた。

どんな方も地域の一員として担い手になれる、また、支援をする対象の方が地域の方々を集めた担い手だったという示唆をもらい、みんなで地域づくりをしていきたいと考えた。ただ地域の歴史を学びコンフリクトについては感度を高めて可能な範囲で把握しながら地域づくりを行えればと考える。

(首都圏)

・グループワークメンバーの共通点として「同じ地域で働いている」という点しかないにも関わらず、地域のお宝や課題がたくさん出てきました。また、どのワークも楽しく実施することができました。これらのワークを地域住民が行うと更に楽しく実施できると思うし、関係性も更に深まるのではないかと思います。

(東海・北陸)

・オンラインでここまでのことができることに驚いた。運営者は準備が大変だったと思うが、大変有意義な研修だったと思う。また、受講させていただきたい。

(東海・北陸)

・自治会役員と専門職がともに研修受講できたことで、地域での企画開催時のキーパーソンになると感じた。今後も今回のようにグループワークもでき、自治会役員もともに参加できる研修があることで、共通認識も広がっていくことにつながるのではないかと感じた。

(東海・北陸)

・今回は、市役所の方と一緒に参加をしました。いつも業務内容の話はしますが、改めてその人の考えや人となりをお話しする時間は仕事の中であまり持っていなかったなと感じました。

そういったお互いにチームとして信頼関係を構築する時間も大切だと感じたことと、今回研修と一緒に受けることができ、一緒に話を聞いたこと、そして、話し合う時間を持てたことがとても良かったと感じました。

(東海・北陸)

本日の研修を受けて考えたこと、気づいたことがあればお聞かせください

・住民と一緒に受講する研修スタイルは、住民とチームで動いている場合、とても有用なものだと感じました。

ただ、研修に慣れていない方も多いため、1回を4時間以内の研修で構成されている方が、住民の方に参加を促しやすいと感じました。

(東海・北陸)

・問題解決思考ではなく、できているところに目を向けることと地域での何気ない関わりが見守りやサロンと同じような活動になっているという意識を持つことに大切さを感じました。自分が当事者の気持ちにならないとわからないことがたくさんあるので、地域を知る前に自分が地域でしていることを考えるのも必要だと思いました。

(近畿)

・社協SC,行政(包括)と受講させていただきました。

それぞれ組織や立場が異なるため、会議などを繰り返しても認識のズレを修正することは難しかったですが、研修をともに受講すること、また、ワークを通しての意見交換をすることで、普段の会議や打ち合わせでは知りえない思いなどを交換し合う機会となりました。

「グループでの参加」は敷居が高いな・・・と思っていましたが、「受講してほんとうによかった」というのが感想です。

(近畿)

・このような研修は行政もしっかり受けていただきたいと思います。今回、包括からの参加はありましたが、他の部署は来られませんでした。行政向けに企画し、呼びかけていただければと思います。

(近畿)

・開催要項に重層的支援体制整備事業の文字があったため勉強したいと思い、事業の担当職員に声をかけ参加しました。現在、参加支援や地域づくり支援にまでは及んでいない(甲賀市は来年度本格実施に向けて、今年度は相談支援を中心に試験期間のような状態)ので、まだ学んだことを実践するイメージは湧きませんが、本格実施の際は、本会の上層部などにもこの研修を受けてほしいと思いました。

(近畿)

・グループ参加でしたので、演習を一緒にすることで、参加者の考え方や日頃の生活状況も知れたので、日頃の仕事に関わる以上の連帯感みたいなものが生まれた気がします。

(近畿)

・オンラインでの演習を受けることが初めてだったのでどのような演習になるのかと思っていましたが、スムーズに演習を受けることができ、こちらがオンラインでの講演・演習を行う際の参考にさせて頂けたらと思います。

(中国・四国)

・オンラインになると演習のチームに自動的に振り分けられるので発言も自然としてしまいます。そのおかげで、向き合ったGWなら出ない意見も出るように思います。

思う事をそれぞれが発言できて、それをうまく共通認識に落とし込めて、みんなで考える事が出来るように頑張りたいです。地域の人から相談あることをうまく地域にもって行って一緒に考えて地域で解決、支え合えたらいいと思う事が多々あるのですが、どうやって手順を踏んで、どんな人とそれを話し合っ、それを実現するためにはどういう制度を使ったらいいのか、すぐに対応できず悩んでいました。この研修を少しずつでも活かして、地域共生のために進んでいけたらと思いました。ありがとうございました。

(中国・四国)

・今日の参加者は、住民や民生委員、ボランティアさんなどの参加が少ないのかなと感じました。その上で一般市民の前に、まずは専門職の皆さんが地域のつながりや、担い手・支え手などへの関心やとらえ方への偏りがあるのかなと感じました。

(中国・四国)

本日の研修を受けて考えたこと、気づいたことがあればお聞かせください

・地域づくりをする立場でありながら、地域住民として担い手になっていないことに気づきました。両サイドから見ていくこと、今後それが自分の課題だと感じました。このような多職種、そして他市町村の方々と顔を見ながら対話する機会を与えて頂いた事に感謝しますし、モチベーションが上がりました。ありがとうございました。

(中国・四国)

・webとワークが一体となった研修で、新しい研修の方法だと感じた。
また、ワークを行いながら、話し合うことの重要性を再認識することができた。

(中国・四国)

・今日の研修を受け、参加者メンバーから、今日のメンバーで今後情報交換会を定期的に行ってはどうかという提案があり検討したいと思う。

(九州・沖縄)

・今まで何からどう手をつけていくといいかわからなかったことの整理の仕方や方法論が少し見えてきた気がします。あとは実行しながら、またいろいろなことに躓いたり、立ち止まったりがあるとおもいますが、まずは一歩踏み出せる気になりました。ありがとうございました。

(九州・沖縄)

・行政職員、社協職員が多かったですが、住民向けに参加を促すことも大切だと感じました。今回は住民の方々とグループワークをしてみてもどの様に受け止めて頂いたのか、とても参考になりました。良かったという声もあがり有意義な時間が過ごせました。

(九州・沖縄)

・地域福祉については現在の関りの中で出来ることがあるし、現在もしている事もあると感じています。全国の方とZOOMですが意見交換が出来た事もコロナ禍であるからかもしれません。コロナ禍でマイナスなことばかりではないと思いました。

(全国)

・多機関多職種連携と言われていますが、地域の中には専門職がいて、その力のむすびつきをどう捉えていくかを、共通の認識で行うことの取り組み方を知りました。オンラインであったことで、全国の人たちと学びを深めたことは良い取り組みと思いました。

(全国)

・日頃顔を合わせる同僚と参加し、より相互理解が深まったと感じる。一方で、他市町村の方々の取り組みも聞いてみたいなと思い、団体・個人の両方で参加しても学びが多いと感じた。とてもよかったです。ありがとうございました。

(全国)

・地域福祉について、少しばかり肩の荷が降りたように思います。小さな村のただ1人のscで右も左も分からず、仕事をしてました。今回の研修に参加できてよかったと思います。

(全国)

・研修を行う上で、実務に生かすための成果を考える必要があると思います。情報共有としてはこのような研修もありと思いますが、例えば「今回の研修を受けて、メンバーで共通認識としてこのようなことが分かったので、今後は〇〇を意識しましょう、〇〇を実践してみましょう、といった具体的な決定事項が生まれるべきだと思います。

(全国)

その他のご意見や感想などがございましたらお聞かせください

- ・非常にためになった研修でした。ありがとうございます。
限られた時間での運営等お疲れ様でした。
欲を言えばもう少しグループ内で話をする時間があれば...と思いましたが、この感想を自分の地域に持ち帰って実践するときの運営等に活かしていきたいと思います。
学びの多い研修でした。改めましてありがとうございます。
(北海道)
- ・今後も今回のようなオンライン研修を行うことができれば自分たちの地域活動に対してさらに貢献することができるので、また機会があれば是非参加したいなと感じました。
(北海道)
- ・開催日がお盆時期だったため、生活支援CD以外の参加調整が難しかった。(市役所職員はお休みの方も多かったです・・・)
(北海道)
- ・研修内容等は参考になりましたが、時間が少し長いのが大変でした。ずっとPC画面を見続けてヘッドフォンをしっぱなしになるので、もう少し休憩時間がほしかったです。
(東北)
- ・地域に関わることは、職を通じていなくても地域に住んでいることから、どんな些細な繋がりでも地域づくりに貢献、担い手に慣れることに気付くことができました。
(東北)
- ・住民と専門職が地域のことについて話し合えて、時間が足りない、もっとグループワークをしたいと感じられた良い機会でした。
(東北)
- ・地域で活動する住民の方と一緒に受講できたことで、繋がりもでき、今後の地域づくりを一緒に行う素地ができた。
(北関東・甲信越)
- ・地域づくりと人材育成はひとりでは取り組めないので、多くの担い手を見つけて取り組めるチームを作りたい。今回研修に参加させていただいて学びの多い研修でした。ありがとうございました。
(北関東・甲信越)
- ・大変勉強になりました。演習もスムーズにいきましたが、もう少し時間がほしかったです。一日半くらいでも良かったのではないのでしょうか。テキストと当日資料がありましたが、どこを見たらよいか講師からの指示がほしかったです。
次回を楽しみにしています。
(北関東・甲信越)
- ・今回グループワークを伴うオンライン研修に初めて参加しました。対面でのワークと異なり、なかなかざっくばらんに意見を出し合うことは容易ではありませんでしたが、進行役を予め指定していただいたことにより、オンラインならではの進行方向を学ぶことができました。また、研修の内容についても、多くの発見がありました。ありがとうございました。
(北関東・甲信越)

その他のご意見や感想などがございましたらお聞かせください

・内容的に2日に分けて、もう少し余裕を持った開催であった方が良いように感じました。余裕を持たせることで、それぞれの単元のリフレクションに力を入れることで気づきが出てくるのかなと思います。

・別の組織で行っている地域づくり（SC）に関する研修より、視点がはっきりしていてわかりやすく、参考になりました。アドバイスがほしい人たちにとっては別組織のほうが良いのかもしれませんが、社協職員としてはCLCの研修が圧倒的に良かったです。

まとまらない回答ですみません。

(北関東・甲信越)

・全体を通して、とても良い研修でした。ワークショップを中心に進行するとともに、講師陣が的確かつ平易な言葉で分かりやすく説明してくださるので、理解が深まりました。

また、講師陣の人柄にも好感が持てます。よくある自信過剰な押しつけ型でないので、言葉がずっと入ってきました。理論と実践のバランスがよい方々なのだと感じました。

ありがとうございました。

(首都圏)

・とても有意義な時間となりました。

同じ想いを持つ仲間を増やしていきたいと思いました。ありがとうございました。

(首都圏)

・生活支援コーディネーターの研修、団体ごとに立ち位置が違うようで、最初はとまどいましたが、地域をどこから見るかで変わってくるのだなあと感じました。CLCはどこから見る、ではなく、中に入り込んで一緒に考える立ち位置が好きです。

(首都圏)

・Zoom研修は対面式の研修よりも疲労感が大きい印象があるのですが、この研修は疲労感なく、常に楽しく受講することができました。

この研修に参加させていただき、本当によかったと思っています。ありがとうございました。

(東海・北陸)

・多くの方がCLCの研修を受けられるようになるといいと思います。自治体への出張研修などもしてもらえると支援者の後方支援につながると思います。

(東海・北陸)

・行政職員の問題解決能力、コーディネート力を向上させるものがあるとうれしく思う。

(東海・北陸)

・ブレイクアウトルームを使った研修が初めてで最初は難しかったが、やってみると意見も言いやすく有意義な時間だった。

(近畿)

・プログラムⅠ・Ⅱの感想にも書きましたが、地域福祉に携わる社協職員の新任研修としてプログラムを作成していただき、講師派遣やオンライン研修をしていただきたいと思います。滋賀県内の社協新任職員が集まって研修をした際に、他の新任職員に話を聞いていると、とりあえず目の前にある仕事（事務仕事も多い）に手一杯で先輩に聞きまくりながら何とかやっているという人が多かったので、こういった内容の研修を求めている職員も多いと思います。

(近畿)

・研修閉会后、市役所職員と一緒に「次回の懇談会について」盛り上がりながら相談・検討することができました。

(近畿)

その他のご意見や感想などがございましたらお聞かせください

・グループで参加できることがとてもよかったです。同じ立場で仕事や業務を行っているが普段、意見交換や情報交換をすることがなかったので、そのような機会にもなりありがたかったです。

(中国・四国)

・生活支援体制整備事業、今形がなくてみんなである力を活かして作り上げていく、ある意味孤独で、開拓者な事業ですが、こうやってオンラインで全国の方や講師の方と出会い話ができることは、とても心強いです。ありがとうございました。

(中国・四国)

・関係地域でのワーク、演習であったので意見交換で内容の良く知り地域の沿った意見も参考になり、大変良かったです。このような研修機会があれば又参加したいと思います。

(中国・四国)

・演習の内容を資料にて示していただいているとブレイクアウトルームに移行してからも確認できたので助かりました。どこに示していただいているのかわからなかった演習では少し戸惑いました。演習を受ける側を体験できよかったです。ありがとうございました。

(中国・四国)

・グループ参加が、行政や生活支援コーディネーターなど様々な関係者を巻き込んで参加できるので、とても画期的で良いと思いました。ただし、日ごろの関係が悪いとグループでの参加は難しく、グループ参加ができる職場は、関係を計るバロメーターであると感じました。

配付の資料、分析から作成されたとても理解しやすく良い資料で、作成チームの凄さを感じました。今後も良い資料の作成と研修の開催を期待しています。

(中国・四国)

・1日研修となると、少し長いと感じました。

(九州・沖縄)

・本日は、有意義な時間を過ごすことが出来ました。ありがとうございました。ブレイクアウトルームで協議する内容がスライド等で映し出してであると良かったです。

(九州・沖縄)

・大変貴重なセミナーだったと思います。今後、機会があれば受講したいと思いますので、今後ともよろしく願いいたします。ありがとうございました。

(九州・沖縄)

・オンライン形式での運営は私も企画することがあるため、この人数は大変なものだと思いました。おかげさまで身のある研修を受けることができました。大変ありがとうございました。

(全国)

・研修が丸一日で、民生委員さんはとてもお疲れの様子だった。私自身も、夕方近くは疲労感があつた。

(全国)

・今回、地域の1層と2層のSC6人で、同じ場所からオンライン研修に参加いたしました。オンラインの良さと同じ場所で研修を受ける良さの両方を感じることができました。

(全国)

その他のご意見や感想などがございましたらお聞かせください

・グループ参加をさせていただきました。これまであまり話をする機会がない機関にも一緒のグループに参加をしていただきましたがいろいろな意見が聞くことができ楽しく研修を受けることができました。またこのような機会があれば参加できればと思う。

(全国)

・たくさんのグループワークに緊張もしたが、色々な視点からの意見を聞くことができ、とても勉強になった。ありがとうございました。

(全国)